

"Playnick"

——そうなんですか。

ボルシヨス でも彼がマウスピースを作り出したのは知らなかった。ずっと後の話（2001年）ですからね。いまミュンヘンフィルの首席をしている親しい友人が教えてくれたんです。「とっってもいいよ」って。最初はジャーマンシステム用のマウスピースから作り始めて、そのうちヴェンツェル・フックスやオッテンザマーたちが使っている評判になり、その後フレンチ用も作るようになった。

初めて吹いてみたのはウイーンです。そのときはビッター来なかつたけれど、その後いろいろ改良されたと聞いて、日本に何本か送ってくださるように彼に頼んだ。というのも、そのころ私は、日本の湿度や気候がヨーロッパと全然違うのでマウスピースやリードのセッティングにとっても苦労していました。送られて来たマウスピースを試したら、とても具合が良く「これだったら苦勞しないで済む」と思って、以後はずっとNICKを使い続けています。

——オッテンザマー親子やヴェンツェル・フックスが使い出したという話は日本でもすぐに広まりましたが、評判は当初、ドイツクラリネットの世界に限られていました。ところがそのうち、バスカル・モラゲスやロマン・ギエイオといったフランスから来目する有名プレイヤーたちもNICKを使っている。それで俄然フレンチ用のNICKに注目が集まりました。ドイツのオーケストラでベームシステムを使っている、例えばシュトゥットガルト放送響首席のディルク・アルトマンも使っていましたね。

ボルシヨス アメリカでも、アンソニー・マクギル（ニューヨークフィル首席）が、彼がメトロポリタン歌劇場にいた頃は間違いないで使っていましたね。ニューヨークフィ

このマウスピースは心地良い抵抗感で奏者の息を絶妙に受け止めてくれる。

ルではバスカル・マルティネス・フォルテイザも使っているとニックは言っている。日本でも、名古屋フィルの僕の同僚の井上京さんほか、何人かが使っている。

独特の心地よい抵抗感！

——何がこれほど広く使われている理由

だと思いませんか？

ボルシヨス NICKには独特の心地よいレジスタンス（抵抗感）があるんですよ。私は、ブツと吹いてすぐに鳴るようなものは好きじゃない。もちろん楽に響くことは大切だけれど、奏者にとってはある程度抵抗のあるマウスピースの方が吹きやすいんです。このマウスピースは息を絶妙に受け止



Robert BORSOS

セルビア共和国出身。9歳からクラリネットを始め、10歳でベオグラードのコンクールに優勝。12歳でノヴィ・サド国際コンクール優勝。ノヴィ・サド音楽院でニコラ・スラディッチ教授に師事した後、1996年にオーストリア国立グラーツ音楽大学に入學。ペーラ・コヴァーチ教授に師事。在学中にオランダ、ロシア、ハンガリー、ルーマニア、ボスニア・ヘルツェゴヴィナでソロコンサートを開催。2003年同大を首席で卒業。さらにゲラート・ハッヒンガー教授（ウィーン交響楽団首席）に師事しながらベオグラード・フィル、グラーツ交響楽団、ウィーン交響楽団、グラーツ室内歌劇場、イエーテボリ歌劇場、オーブス交響楽団に客演する。2008年にはヴェンツェル・フックス、ペーター・シュミードルのマスタークラスを受講。2006年ベオグラード・フィル、2007-09年兵庫芸術文化センター管弦楽団のクラリネット奏者。2010年に名古屋フィルに入団し現在は首席奏者。